

世界経済の現状と見通し

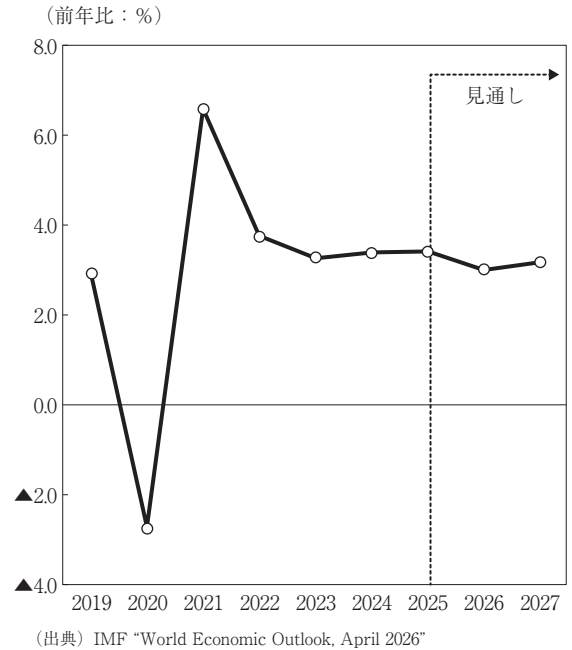
1. はじめに

2025年の世界の実質GDP成長率は、インフレ率の緩やかな鈍化傾向が続く中、前年比+3.4%と前年から横ばいとなった。もっとも、2026年春にかけては、世界的に貿易政策を巡る不確実性が引き続き意識されており、今後の景気動向をみる上での一つの留意点となっている。

さらに、足もとの中東情勢の急速な緊迫化により、国際的なサプライチェーンは混乱し、エネルギー価格の高騰や金融市場のボラティリティ上昇が確認されている。今後は、中東情勢緊迫化が長期化することが主なリスク要因として注目され、企業や家計に与える影響が懸念される。

本稿では、2025年から2026年春までを中心に主要国・地域経済の動きを概観するとともに、国際機関、政府による見通しや、金融政策の動向を紹介する。

【図表1】世界全体の実質GDP成長率の推移（実績と見通し）



【図表2】各国、地域の実質GDP実績と見通し

（前年比，％）

		実質GDP成長率			
		2024年 実績	2025年 実績	2026年 見通し	2027年 見通し
先進国	日本	▲0.2	1.2	0.7	0.6
	アメリカ	2.8	2.1	2.3	2.1
	ユーロ圏	0.9	1.4	1.1	1.2
	イギリス	1.1	1.3	0.8	1.3
	先進国計	1.8	1.9	1.8	1.7
新興国	中国	5.0	5.0	4.4	4.0
	インド	7.1	7.6	6.5	6.5
	ロシア	4.9	1.0	1.1	1.1
	ブラジル	3.4	2.3	1.9	2.0
	サウジアラビア	2.6	4.5	3.1	4.5
	メキシコ	1.4	0.6	1.6	2.2
	新興国計	4.5	4.4	3.9	4.2
世界計		3.4	3.4	3.1	3.2

（出典）IMF "World Economic Outlook, April 2026"